

第 17 章 中沢前遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

中沢前遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南約 200 m、さかい川の谷頭部から約 700 m 下った右岸、標高 17 ~ 18 m に位置する。本遺跡の西側には西ノ原遺跡が隣接し、さかい川を挟んで北側には富士見市中沢遺跡がある。

2014 年 12 月現在、31 ケ所で調査を行い、確認した遺構と遺物は旧石器時代（立川ローム層Ⅳ～Ⅲ層上面）の石器集中 1 ケ所と、縄文時代とみられる土坑とピット、中近世の土坑・地下室・溝である。縄文時代の遺物は前期の黒浜式と中期の加曽利 E 式の土器片が遺構外から出土しているがごく僅かである。中近世の遺構からは陶磁器等が出土しており、その中に須恵器片等が含まれており、既期の遺構の存在も予想されるが、遺跡の範囲や内容については未だ確定していない。

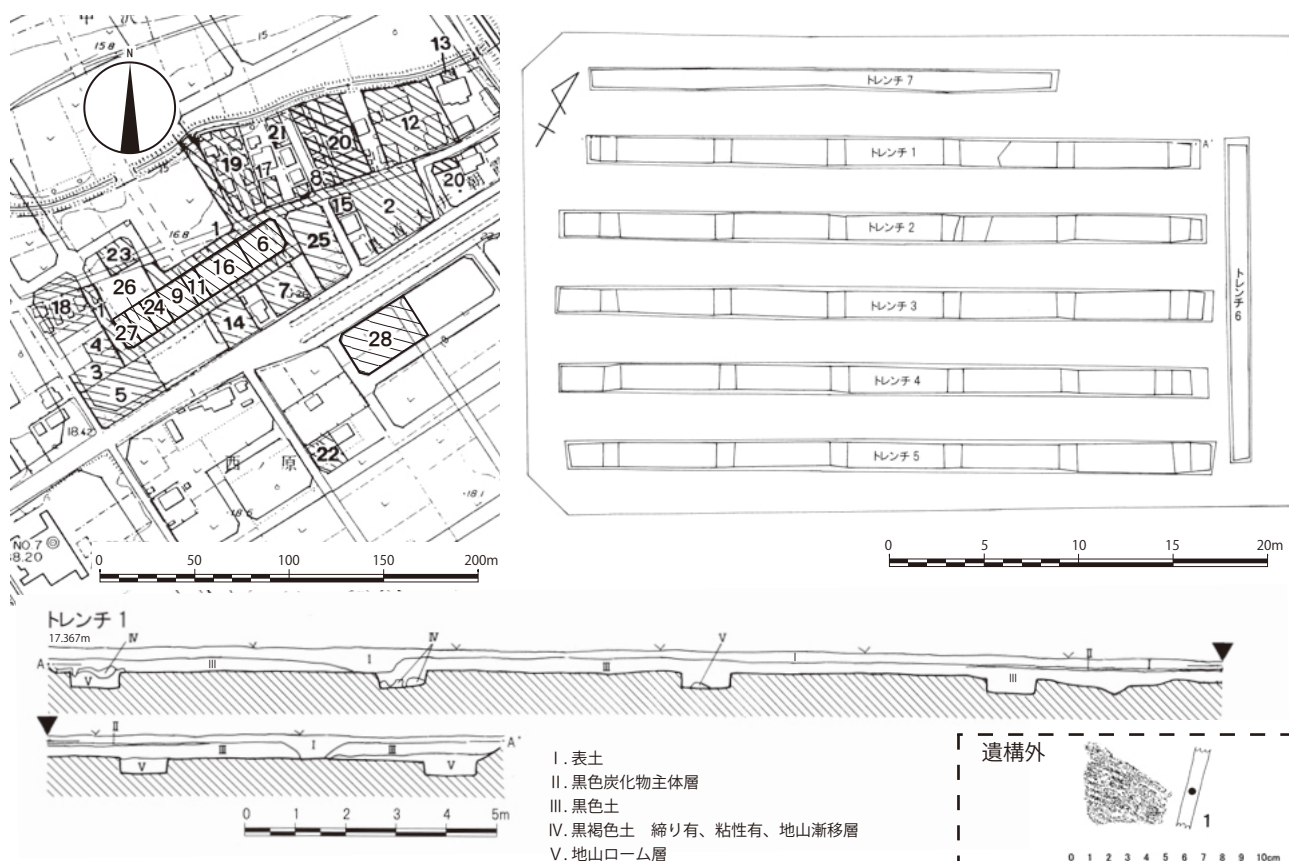
II 中沢前遺跡第 28 地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より 2011 年 5 月 31 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の南側に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は同年 6 月 8 日～14 日に、幅約 1 ~ 1.5 m のトレンチを 7 本設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行い、遺構は確認されなかった。地表面から地山ローム層までの深さは約 40 cm であった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査を行ったが遺構・遺物は確認されなかった。

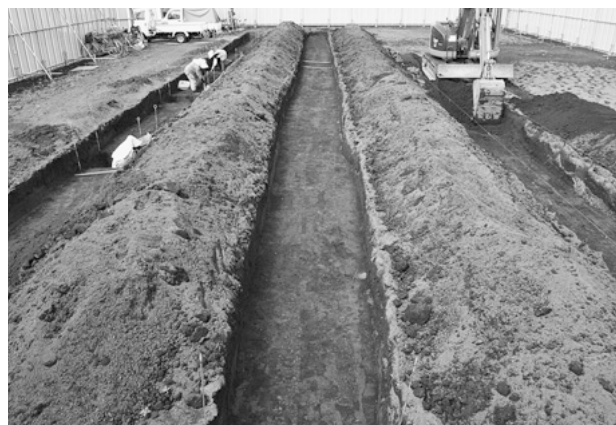
1 は遺構外出土の縄文土器深鉢で地文 LR 縄文、胎土に金雲母を多量に含む。



第 74 図 中沢前遺跡の地形と調査区 (1/4,000)、第 28 地点調査区域図 (1/400)、土層 (1/150)、出土遺物 (1/4)



中沢前遺跡第 28 地点調査風景



中沢前遺跡第 28 地点調査風景



中沢前遺跡第 28 地点調査風景



中沢前遺跡第 28 地点遺構外出土遺物 No.1



神明後遺跡第 44 地点調査風景



神明後遺跡第 44 地点落とし穴



神明後遺跡第 45 地点調査風景



神明後遺跡第 45 地点近景